

10 好調な輸出・輸入

図表10-1 管内貿易額の推移

(中部5県の貿易概況)

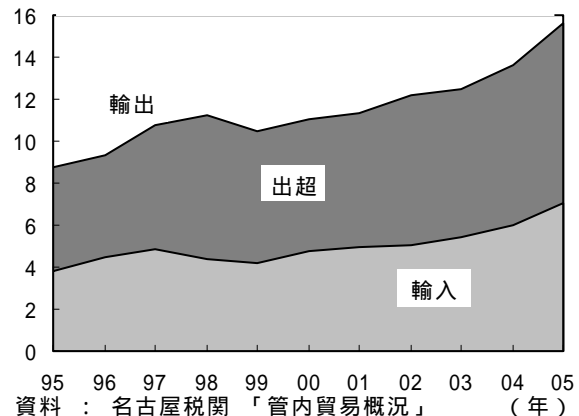
2005年のアメリカ経済は、原油価格が過去最高水準を更新する形で上昇し高止まりする中で、物価上昇等を通じた経済全体への影響が懸念されたが、景気への下押し圧力は限定的なものにとどまり、個人消費の堅調な伸びを中心に、景気拡大が続いた。アジア経済は、原油価格高騰の影響等から景気の拡大が緩やかになる国がみられたものの、中国を中心に景気拡大が続いた。EU経済は、外需の好調と内需の回復により景気は緩やかに回復したが、原油価格高騰の影響等もあり、05年末にかけてやや減速した。02年初から景気回復に転じたわが国の経済は、04年後半から踊り場の状況となったが、05年央には、アジア向け輸出の持ち直しなどにより、景気は踊り場を脱出し、その後も緩やかな景気回復が続いた。

このような状況の中で、名古屋税関管内中部5県(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)の貿易動向についてみると、2005年は輸出入とも6年連続で増加となり、管内貿易額は全国貿易額の18.5%を占めた。

このうち輸出額は15兆6398億円で全国の輸出額の23.8%を占め、税関別順位は、成田空港、東京港を含む東京税関を抜き、初めて1位となった。輸入額は7兆782億円で、全国の輸入額の12.4%を占めた。輸出と輸入の差引額は、8兆5616億円(前年7兆6383億円)の黒字(輸出超過)となり、全国の貿易黒字額(黒字税関計)に占める割合は前年より12.8ポイント上昇し、65.8%となった(図表10-1)。

なお、対ドルの円相場は04年108.17円から05年110.21円に、対ユーロの円相場は04年134.39円から136.89円に、ともに円安に動いた。04年に4.2%上昇した輸入物価指数は、原油価格の高騰及び円安などの影響を受けて05年は13.1%上昇した。また輸出物価指数は円高により04年は1.4%低下したが、05年は円安などで2.0%上昇した(図表10-1)。

(兆円)



資料：名古屋税関「管内貿易概況」(年)

(6年連続の増加となった輸出)

2005年の管内輸出についてみると、輸出総額は前年比14.6%増の15兆6398億円となり、6年連続の増加となった。

管内の輸出先を主要地域(国)別にみると、アメリカ向けは、自動車、二輪自動車類、金属加工機械などが増加したことから前年比15.5%増となり、2年連続の増加となった。アジア向けは、鉄鋼、自動車の部分品、金属加工機械などが増加したことから、同16.3%増と4年連続の増加となった。うち中国向けは、鉄鋼、自動車の部分品、音響・映像機器の部分品などが増加し同20.1%増と、6年連続の増加となった。EU向けは、原動機、音響・映像機器の部分品、金属加工機械などが増加したことから、5.7%増と5年連続の増加となった。その結果、管内の輸出先の構成比は、アメリカ33.4%、アジア29.2%、うち中国8.7%、EU18.5%、中東4.3%、その他14.6%となり、アメリカのほか、アジア(中国含む)、中東のシェアが拡大した。

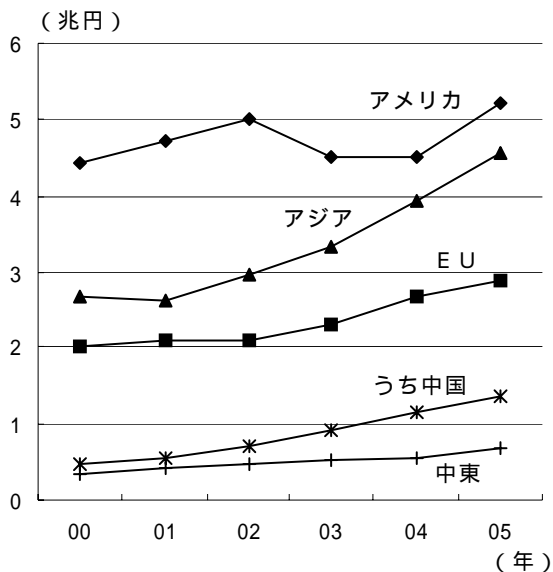
図表10-2 管内輸出額の主要地域(国)別前年比の推移

(単位：%)

年	アメリカ	アジア	うち中国	EU	中東
00	5.5	21.1	34.5	-7.5	2.3
01	6.1	-2.4	14.7	3.9	21.5
02	6.3	12.9	31.2	0.0	15.3
03	-10.1	12.6	37.2	9.6	10.2
04	0.2	17.6	25.3	12.9	3.8
05	15.5	16.3	20.1	5.7	22.7

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10 - 3 管内輸出額の主要地域(国)別の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、自動車は、燃料高の影響から燃費の良い日本車の販売好調もあり、輸出台数は 311 万台で前年比 5.0%増、輸出額は 5 兆 4110 億円で同 11.0%増と 2 年連続の増加となった。自動車の最大の輸出先であるアメリカ向けは、2 兆 4894 億円で同 18.4%増、アジア向けは、3313 億円で同 1.3%増となったが、EU向けは、9496 億円で同 7.3%減となった。なお、2005 年の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の 54.5% (前年 52.9%) を占めている。自動車の部分品は、海外における自動車の生産の増加などから、同 11.8%増の 1 兆 5000 億円となった。このうちアメリカ向けは 4985 億円で同 2.9%増、アジア向けは 4481 億円で同 13.0%増、EU向けは 2466 億円で同 7.4%増とそれぞれ増加した。ガソリンエンジンや船外機などの原動機は、7952 億円で同 17.7%増となり、アメリカ向け同 6.9%増、アジア向け同 23.6%増、EU向け同 29.0%増となった。旺盛な海外の設備投資により、金属加工機械は、4622 億円で前年比 37.2%増となり、アメリカ向け同 51.8%増、アジア向け同 30.4%増、EU向け同 33.1%増となった。半導体等電子部品は 3862 億円で前年比 12.6%増となった(図表 10 - 2、10 - 3、10 - 4、10 - 5)。

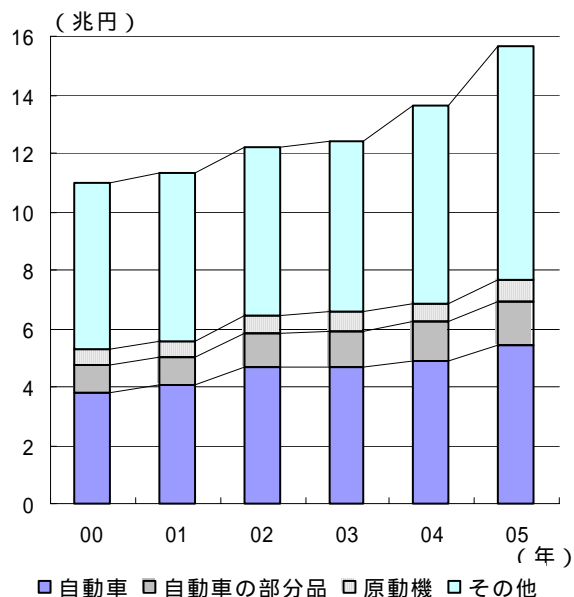
図表 10 - 4 管内輸出額の主要品目別前年比の推移

(単位：%)

年	自動車	自動車の部分品	原動機	金属加工機械	半導体等電子部品
00	3.5	11.4	3.7	4.8	13.8
01	6.4	2.3	3.1	-1.4	1.0
02	15.6	17.9	14.3	-17.0	-5.1
03	-0.4	10.1	-2.5	31.8	8.7
04	4.0	11.1	-0.1	9.5	9.5
05	11.0	11.8	17.7	37.2	12.6

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10 - 5 管内輸出額の主要品目別の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(6年連続の増加となった輸入)

2005年の管内輸入についてみると、輸入総額は7兆782億円となり、前年比17.8%増で6年連続の増加となった。

管内輸入額の主要地域(国)別内訳をみると、アジアは、科学光学機器、石油ガス類、石油製品などが増加し、同19.0%増と7年連続で増加した。うち中国は、自動車の部分品、科学光学機器、金属製品などが増加し、同18.2%増と6年連続の増加となった。中東は、主要品目である原油及び粗油、石油ガス類や石油製品などが増加し、同41.4%増と3年連続の増加となった。EUは、医薬品、有機化合物、

原動機などが増加し、同 4.8%増と 3年連続の増加となった。アメリカは、金属製品、アルミニウム及び合金、原動機などが増加したことから、前年比で 5.5%増と 3年ぶりの増加となった。その結果、管内輸入地域(国)の構成比は、アジア 46.6%、うち中国 20.6%、中東 18.3%、EU 13.0%、アメリカ 8.7%、その他 13.4%となり、アジア(中国含む。)中東のシェアが拡大した。

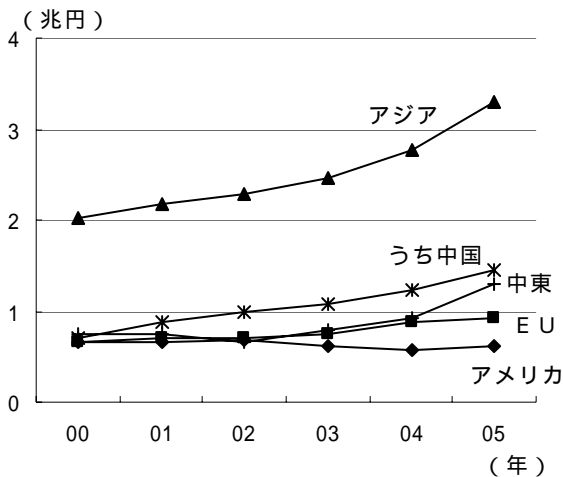
図表 10-6 管内輸入額の主要地域(国)別前年比の推移

(単位: %)

年	アジア	うち中国	中東	EU	アメリカ
00	18.2	14.2	51.4	3.0	-17.6
01	7.3	23.4	-0.8	7.3	-1.8
02	5.4	12.2	-10.2	-0.3	5.4
03	7.4	9.1	20.2	6.6	-10.1
04	12.4	15.2	14.4	13.4	-5.4
05	19.0	18.2	41.4	4.8	5.5

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10-7 管内輸入額の主要地域(国)別の推移



資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、原油及び粗油は、数量は前年比 2.4%増であったものの、取引価格(平均通関価格)が 1 バレルあたり前年 35.28 ドルから 50.39 ドルに高騰したことにより、輸入額は前年比 48.1%増の 1 兆 163 億円となった。増加寄与度では 5.5%となり、輸入増加額に占める寄与率は 30.9%となった。石油ガス類は、数量は前年比 2.1%増であったが、原油高の影響から輸入額は同 22.7%

増の 5258 億円となった。自動車は、輸入台数は 14 万 7 千台で同 5.3%減、輸入額は 4039 億円で同 3.3%減と、台数、金額ともに減少している(図表 10-6、10-7、10-8、10-9)。

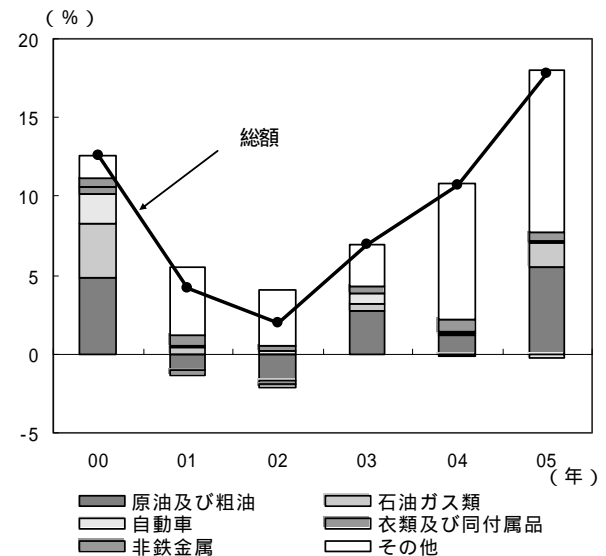
図表 10-8 管内輸入額の主要品目別前年比の推移

(単位: %)

年	原油及び粗油	石油ガス類	自動車	衣類及び同付属品	非鉄金属
00	48.6	61.1	27.4	8.1	14.2
01	-8.1	4.7	0.7	14.1	-6.9
02	-15.2	-2.0	2.1	-3.3	7.4
03	28.0	6.5	8.8	0.2	9.3
04	11.0	-0.9	1.1	2.2	18.1
05	48.1	22.7	-3.3	2.3	11.9

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10-9 管内輸入額の品目別増加寄与度の推移



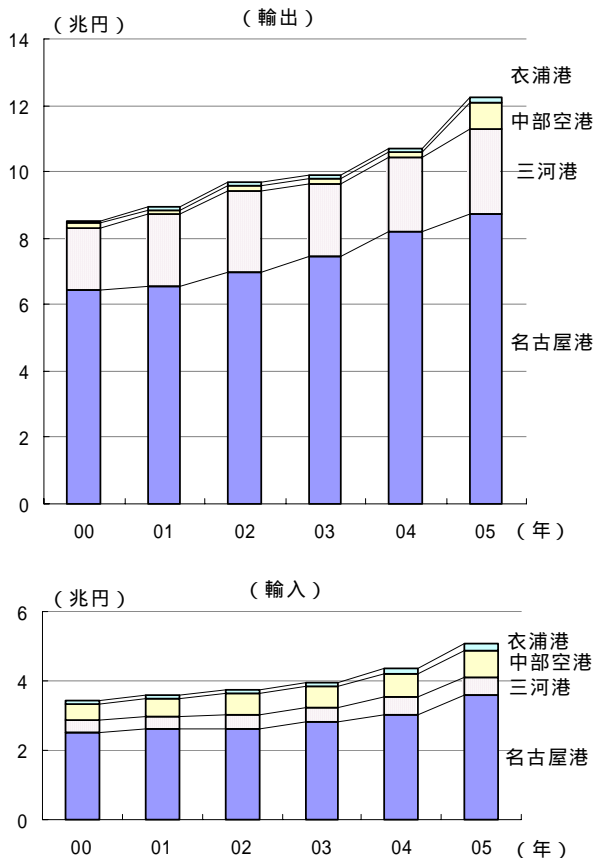
資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

(中部空港の輸出が大幅増加)

管内貿易港 10 港のうち県内には名古屋港、三河港、中部国際空港(2005 年 2 月 17 日開港前は名古屋空港、以下「中部空港」という。)衣浦港の 4 港があり、4 港の 2005 年の輸出額は、前年比 14.3%増の 12 兆 2206 億円となった。最大港の名古屋港の輸出額が引き続き増加したほか、2 月に開港した中部空港の輸出額の増加が大きく寄与した。中部空港の港

別輸出額順位は、前年35位から一気に14位となり、これらにより、県内4港の輸出額の全国シェアは1.1ポイント上昇し18.6%となった。また輸入額は、原油及び粗油、石油ガス類などが大幅に増加し、同15.9%増の5兆578億円となった

図表10-10 県内港の貿易額の推移



中心貿易港である名古屋港の輸出額は8兆7298億円で前年比6.6%増、輸入額は3兆6088億円で同18.8%増と輸出入額ともに6年連続の増加となった。名古屋港の05年の輸出品は、輸出額全体の41.2%を占める自動車及び自動車の部分品、ほかに金属加工機械、原動機などが増加した。輸入品は、原油及び粗油、石油ガス類、非鉄金属などが増加した。

なお、名古屋港は国内5大港（東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港）の一つで、05年の輸出額は、海港では7年連続でトップとなり、わが国輸出額の13.3%を占めている。また輸入額は、海港で

図表10-11 県内港・国内五大港・主要空港の貿易額

輸出 (単位：億円，%)				
順位	港名	輸出額	前年比	全国比
1	成田空港	106,373	-0.3	16.2
2	名古屋港	87,298	6.6	13.3
3	横浜港	71,516	3.9	10.9
4	神戸港	51,641	6.0	7.9
5	東京港	46,868	6.6	7.1
6	関西空港	40,402	-5.1	6.2
7	三河港	25,460	13.7	3.9
8	大阪港	25,195	23.9	3.8
14	中部空港	8,103	390.3	1.2
42	宇都宮港	1,346	40.3	0.2
全国計		656,565	7.3	100.0
県内港計		122,206	14.3	18.6

輸入 (単位：億円，%)				
順位	港名	輸入額	前年比	全国比
1	成田空港	109,252	6.0	19.2
2	東京港	61,293	10.6	10.8
3	名古屋港	36,088	18.8	6.3
4	大阪港	34,070	11.8	6.0
5	横浜港	33,456	12.3	5.9
7	関西空港	26,080	9.3	4.6
8	神戸港	24,544	9.9	4.3
16	中部空港	7,957	15.4	1.4
21	三河港	4,804	-1.3	0.8
41	宇都宮港	1,730	14.8	0.3
全国計		569,494	15.7	100.0
県内港計		50,578	15.9	8.9

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-12 名古屋港貿易額の主要品目別・国別
前年比・構成比

輸出 (単位：%)			輸入 (単位：%)		
品目名	前年比	構成比	品目名	前年比	構成比
自動車	7.4	27.8	原油及び粗油	37.2	8.0
自動車の部分品	11.8	13.4	非鉄金属	8.4	7.6
原動機	16.6	5.0	石油ガス類	23.3	7.4
金属加工機械	34.7	4.8	衣類及び同付属品	2.2	7.0
事務用機器	7.5	3.2	織物用糸及び繊維製品	3.8	3.2

輸出 (単位：%)			輸入 (単位：%)		
国(地域)名	前年比	構成比	国(地域)名	前年比	構成比
アメリカ	5.6	19.4	中国	17.3	30.8
中国	3.9	10.6	アメリカ	10.5	8.7
オーストラリア	1.8	4.8	韓国	65.5	6.3
タイ	23.9	4.7	インドネシア	14.5	6.0
台湾	11.1	4.4	タイ	19.0	4.6

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

は東京港に次いで第2位となり、わが国輸入額の6.3%を占めている。

県内貿易港のうち、名古屋港に次いで輸出額の多い三河港は、2005年の輸出額が総額2兆5460億円となり、前年比で13.7%増加した。三河港の輸出総額の95.9%が自動車であり、輸出先はアメリカが87.0%を占めている。一方、輸入額は4804億円で、前年比で1.3%減少した。輸入総額のうち自動車が80.0%を占め、主な輸入先はドイツ、イギリス、南アフリカ共和国などとなっている。なお、三河港の自動車輸入額は、全国の42.0%を占めており、自動車の輸入台数、輸入額ともに全国第1位となっている。

図表10-13 三河港貿易額の主要品目別・国別
前年比・構成比

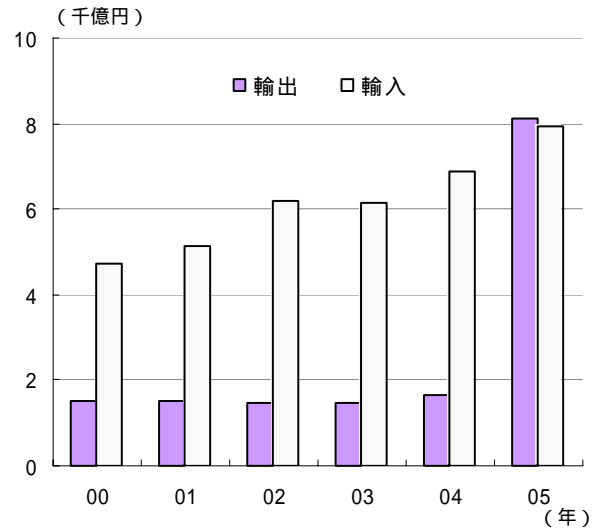
輸出			輸入		
品目名	前年比	構成比	品目名	前年比	構成比
自動車	13.2	95.9	自動車	-3.8	80.0
船舶類	5.2	1.1	木材	-5.6	1.7
鉄道用車両	116.3	1.0	有機化合物	-15.8	1.0

輸出			輸入		
国(地域)名	前年比	構成比	国(地域)名	前年比	構成比
アメリカ	17.7	87.0	ドイツ	-4.4	38.1
カナダ	8.2	2.6	イギリス	-21.0	10.3
台湾	-24.2	1.0	南アフリカ	35.2	10.2

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

2005年2月17日に開港した中部空港の05年(開港前の名古屋空港の実績を含む。)の輸出額は8103億円で前年(名古屋空港)の4.9倍、輸入額は7957億円で前年比15.4%増となり、輸出入総額では同87.9%増の1兆6060億円となった。また、前年は輸入額の4分の1にすぎなかった輸出額が大幅に増加し、1973年以来32年ぶりに輸出が輸入を上回った。輸出品は、半導体等電子部品、映像機器、電気回路等の機器、科学光学機器、音響・映像機器の部分品など多くの品目で増加した。輸入品は、有機化合物、医薬品などが増加した(図表10-10、10-11、10-12、10-13、10-14、10-15)。

図表10-14 名古屋空港~中部空港 貿易額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-15 中部空港貿易額の主要品目別・国別
前年比・構成比

輸出			輸入		
品目名	前年比	構成比	品目名	前年比	構成比
半導体等電子部品	143.4	23.5	医薬品	119.5	8.7
映像機器	7778.6	9.7	事務用機器	-3.4	8.3
電気回路等の機器	99.2	6.6	半導体等電子部品	-17.0	8.1
科学光学機器	1359.3	5.4	音響・映像機器(含部品)	-0.6	6.5

輸出			輸入		
国(地域)名	前年比	構成比	国(地域)名	前年比	構成比
中国	651.4	18.6	中国	12.4	16.6
アメリカ	421.4	18.5	台湾	9.9	16.6
マレーシア	121.7	9.3	アメリカ	-0.1	15.5
香港	1438.5	5.5	アイルランド	18.1	10.5

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(中部空港開港1年)

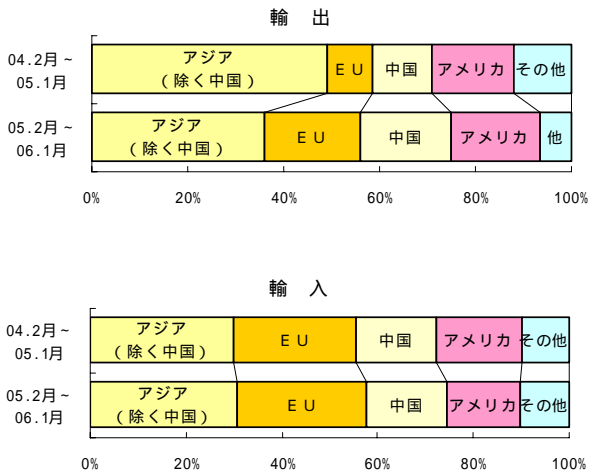
中部空港は、開港後1年間(2005年2月1日から06年1月31日)で、輸出が大幅に増加した。顕著な輸出の伸びの要因は、他空港(海港を含む。)からのシフトのほか、好況の中部経済を反映している。

同期間で比較した名古屋税関の資料によると、地域(国)別で見ると、輸出はアジア(除く中国)向けが金額で3.8倍に増加したものの、EU向けが11.2倍、中国向けが7.9倍と伸びがより顕著であったことから、シェアではアジア(除く中国)が13.2ポイント縮小し、EUが10.7ポイント、中国が6.5

ポイントとそれぞれ拡大した。

一方、輸入は輸出ほど大きな変動がなかったものの、EU及びアジア(除く中国)のシェアが拡大し、アメリカは縮小した。

図表10-16 中部空港貿易額の地域(国)別シェア

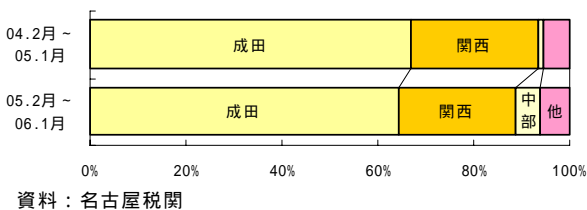


資料：名古屋税関

国際貨物の入港機数は、開港当初から徐々に増え06年1月では前年同月比1.5倍となった。通年(2月~翌年1月)でも、名古屋空港実績1万1507機に対し、中部空港実績は1万7208機となり、1.5倍となった。名古屋空港当時には週5便しかなかった貨物専用便は、10倍の週52便にまで拡充された。

主な空港別の輸出額をみると、成田空港と関西空港はほぼ横ばいとなったが、中部空港は5.2倍になった。その結果、空港貨物に占めるシェアは、中部空港が4.2ポイント拡大し、成田空港(2.6ポイント)と関西空港(2.4ポイント)は、ともに縮小した(図表10-17)。

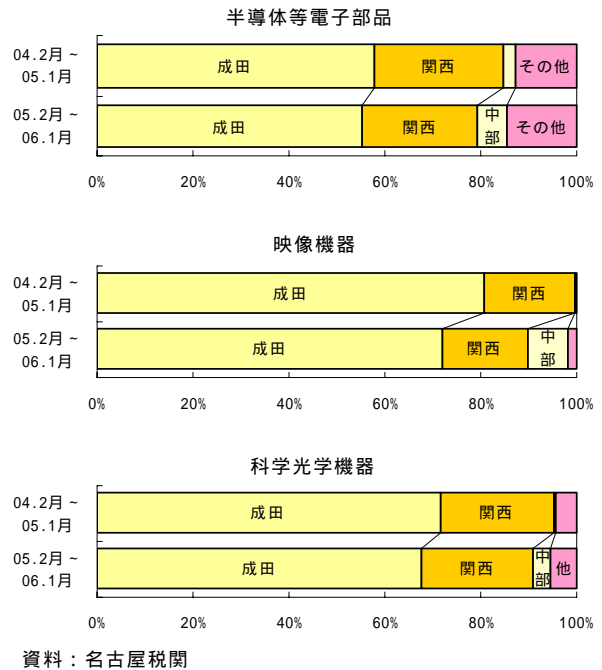
図表10-17 輸出総額の空港別シェア



資料：名古屋税関

輸出増加の上位3品目について中部空港のシェア拡大の要因をみると、半導体等電子部品及び科学光学機器は、他港からのシフト、需要増に加え、名古屋港からの通関地変更があった。映像機器は、成田空港のシェアが大きく縮小したことから、成田空港から中部空港へのシフトが窺える。

図表10-18 輸出増加品目の空港別シェア



資料：名古屋税関

主要4地域(国)別のシェアをみると、路線・便数が充実した中国向けや貨物専用便が増便されたEU向けの拡大幅が大きい。中部空港開港後は通関額、貨物取扱量とも確実に増加している。開港後1年を経過し、今後、益々の飛躍が期待される(図表10-16, 10-17, 10-18)。